

# 日本をキリストへ 協力

19

「日本をキリストへ」  
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1

TEL 03-3296-1001

## キリストの降誕

伝道団体連絡協議会副会長

原 登

イエス・キリストのお生まれになった時代は、ローマ皇帝アウグストの時代であった。アウグストとは、ローマの元老院が与えた称号であり、ラテン語で「崇敬すべき者」の意味である。この人は軍人で、また政治家として多くの功績をあげ、「ローマの平和」を確立した。彼はローマ市民から崇められ、また恐れられた。アウグストはローマ帝国が隆盛になるに伴い、神として崇められるにいたったのである。

イエス・キリストの御降誕は、この皇帝アウグストの時代であった。生まれたもう神の御子は、馬小屋の中で、そして寝かせられた臥床は飼葉おけであった。ただし天使は、この摂理的な出来事に深い意義があることを告げている。「あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである」と(ルカ二・一二)。

このしるしとは、何のしるしであろうか。それは神の子のしるしであり、救い主のしるしである。

ルカは、イエス・キリストの御降誕の記録を記すにあたって冒頭にローマ皇帝アウグストを登場させた。御降誕を皇帝アウグストと関連させ、ローマ皇帝が、神であり救い主であると信じられていた時代に、ルカは、本当の神の子はイエス・キリストであり、本当の救い主は馬小屋に生まれたもうたイエス・キリストであると宣言し、告白しているのである。

ローマ皇帝礼拝が台頭しつつある時代に、真の礼拝すべきは、ローマ皇帝ではなく、神の子イエス・キリストであると訴えているのである。真の神は、ローマ皇帝か、イエス・キリストか、とルカは挑戦しているのである。

四十数年前、日本の当時のクリスチャンは、日本の軍国主義の全盛時代に、官憲から「天皇とキリストとどちらが偉いか」と問い詰められて迫害されたのであった。ホーリネス系の牧師・信徒への弾圧は、小規模ながら二百五十年続いたローマ帝国のキリスト教迫害とひとしくしているものである。

今ここで私たちは、天皇陛下は人間であり、イエス・キリストは神であると告白しなければならない。それはまた、私たちの心中の問題としても問われているのである。「イエス・キリストを心中の王として迎えよ」と。私たちの心の王座には誰が座るべきか、この世の権力欲か、物質欲か、あるいはまた自我か、それともイエス・キリストか。ペテロの祈りの言葉に心を傾けたい(エペソ三・一四〜一九)。

一八世紀のメソジストの開祖ジョン・ウエスレーに大きな霊的感化を与えたモラビアン兄弟団の若き指導者であったデズモンドルフ伯爵は、幼い頃回心を経験し次の様に祈った。「愛しまつる主よ。私のものとなって下さい。私は、あなたのものとなります」と。

研修・開催  
懇談会

# 研修・語らい・交わり・ 休息の時を感謝

毎年一泊でもたれていた研修会を今年は二泊にしようと役員会で話し合われ、去る九月三十日から十月二日まで軽井沢恵みシャレーで開かれた。

今回は岩崎喜太男氏(太平洋放送協会)・浅見鶴蔵氏(聖書刊行会)・渡辺佐次郎氏(OCC)が幹事役を勤め、良く準備をしてくださった。

生憎の雨のなかではあったが、楽しく有意義な研修の時、語らいの時、交わりの時、休息の時が与えられた。研修会の内容をご報告しよう。

開会の礼拝では、岸田馨氏がメッセージを取り次ぎ、夕食後、小川吾郎氏(ナビゲータ)の司会で和気あいあいのうちに各団体の証し、個人の恵みの証しがなされ、ときに涙で証しがとぎれることもあった。

## 岩井虔氏講演要旨

### 豊かな心とマナー・ジメメント

衣食足りて礼節を知る、と言われますが、今日のように足りていても心は果たして豊かになっていけるでしょうか。むしろ、心の豊かさを求めている

二日目はいよいよ本命の研修で講師はPHPで知られる岩井虔氏。お忙しい日程の中、わずかの時間のために、わざわざ京都から駆けつけてくださった。テーマは「豊かな心とマナー・ジメメント」講演の内容は本誌に紹介しよう。昼食後、渡辺氏の運転で万座温泉へ出掛けた。追われるような奉仕に明け暮れる同労者がゆっくりと温泉につきり、歓談するのはまさにセラの時だった。紅葉し掛かっている山道をドライブするのも楽しかった。夕食後、姫井雅夫氏の指導のもとにテーマにそってどのように具体的に伝道団体連絡協議会が運営されていったらよいかを懇談した。伝道のために主が教会を立てられたと同様に伝道団体をも立てておられることを確認した。

る時代です。

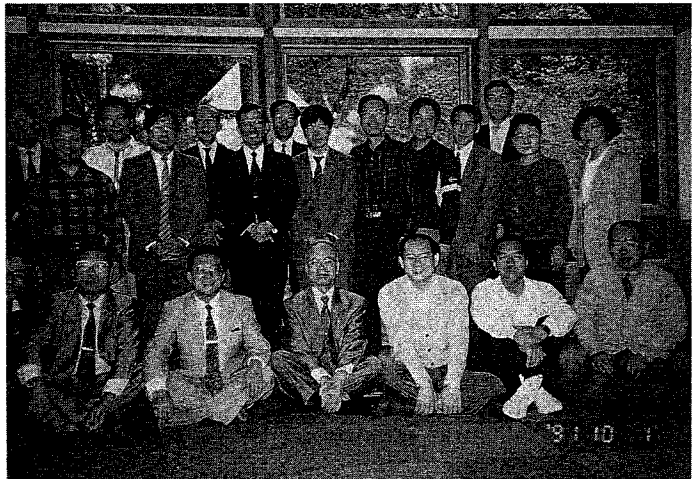
I 何が豊かな心か  
信仰を持つ、祈り心を持つ、人を愛する心を持つ、感謝する心を持つ、このようなことが豊かさではないだろうか。

三日目、まとめの時をもって散会した。参加者は十七団体から二九名であった。

II マナー・ジメメントとは何ぞや

松下氏と28年間付き合ってきたので、私のマナー・ジメメントの本質論は松下氏の考え方、思想が中心になっています。

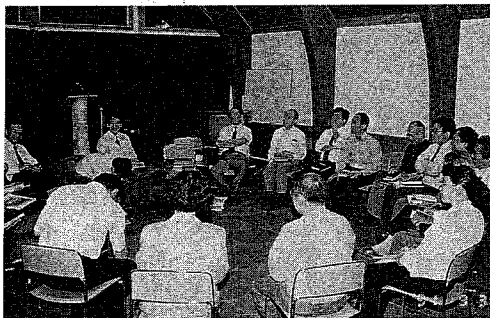
成功とは、単なる利潤追及ではない。人間としての成功を考える。客のニーズを研究する。昨日の常識が今日の常識ではないことがある。人より



参加者全員集合



▲講師の岩井氏。 ▼楽しい交わりの時。



半歩先を歩け。

経営者として成功するタイプ

1. 生涯勉強型 若い人の感覚に耳を傾けよ。
2. 素直型 人の意見を受け入れよ。
3. プラス発想型 大きいことを頭に描け。

### Ⅲ 松下イズム

彼の根底にあったものを紹介しよう。

1. 物を大切に作る。ゴミも無駄にするな。
2. 自分でやる。
3. 人を大切に作る。
4. 可能思考 百の内、三つ出来たら喜べ。
5. 経営理念をもて。

d. 精神を尊べ

社会に役立つ心がけ

公明正大

和心一致

力闘向上

礼節謙讓

順応同化

感謝報恩

人は、欲得、好き嫌い、知識に捕らわれやすい。しっかりした経営理念・目標・方針をもち、それを明文化すべきだ。ちなみに、ジョンソン&ジョンソンの理念は

1. お客様第一
2. 社員第二
3. 周辺の人々第三
4. 株主第四

### Ⅳ 人を育てるには

アメリカでは資格のある者を採用して使う。

しかし、松下氏は違う。いかにして人を育てるか。

1. 目標をもたせる。
2. 任せる。その人の自由性を生かす。事業部制にしたのもこの考えから。それによって、

- a. 決断が速くなる。
  - b. こまわりがきく。
  - c. 収支が速く分かる。
  - d. 責任が明確になる。
  - e. けじめができる。
  - f. 人材が育つ。
  - g. 他事業部との競争が生まれる。
3. しっかり、また褒める。
4. 部下への感謝の心を忘れない。
- 責任者とは、方向指示機の付いたお茶くみ器

### Ⅴ 発展させるポイント

1. 時代に合ったものを世に提供する。
2. 人を育てて用いる。
3. 理想を掲げる。ビジョンを持つ。
4. 企業は公器。私物化しない。
5. ガラス貼り経営。
6. 全員経営。
7. 派閥を作らない。誰でも長所をみて付き合う。
8. 方針を明確にする。
9. 自分が凡人であることを知る。人から学べ。
10. 無理をしない。チャレンジするが、受け入れられないと分かれば、引込める勇気をもて。

# P B A 40周年迎える

太平洋放送協会（P B A）は、今年四十周年の大きな節目を迎えました。越し方を振り返る時、主が導いてくださった後には豊かな油が滴っており、まさに恩寵溢れる歳月であったことがわかります。

一九五一年T E A MとF E B Cから三名ずつの宣教師が選ばれ、太平洋東洋放送会社を設立これがP B Aの前進となりました。東京都世田谷区松原町の民家の二室を事務所として、五二年八月十日富山放送局から最初のキリスト教日本語番組「暗き世の光」が放送され、五四年羽鳥明師が理事長に就任、またラジオ牧師として「世の光」番組がスタート、六〇年十一月に太



を転々とし、ようやく梅ヶ丘に本拠を構えるこ

とができたものの、録音中は防音のため歩き回ったり、トイレ使用が禁止される状況でした。

祈りに始まり祈りに終わり、無から一つ一つ切り開く、まさに荒野の旅にも似たものでありましたが、まことに主は常に生きて働かれる小さな群れを導き、苦難の日に磐となってご自身の栄光を現されたことを思わしめられます。

八六年P B A五カ年計画が発足、五大目標が掲げられました。(1)福音放送をもって、一〇〇%日本をカバーする。(2)海外放送の充実と拡張を実現する。(3)テレビ放映の再現と継続化の確立。(4)教会に仕え、放送が果たしている役割を一〇〇%教会の宣教活動に活用していただく。(5)五年後には現在の倍の働きができるように財政の確立をめざす。

太平洋放送協会は財団法人の認可を受け今日に至っております。制作のためスタジオを必要とします。初期の頃には、これを建設する資金がなく、宣教師師弟の学校の地下室や貸スタジオを転々とし、ようやく梅ヶ丘に本拠を構えること

創立四十周年は、五カ年計画の終了年でもありますが、ラジオ番組「世の光」は民放二十六年より放送され、電波は日本全土九七%に達しました。GRAMからの短波放送K T W R「サンゴ礁の彼方から」は、アジア全域遠くソビエト・シベリア一円に及びます。テレビ「ライフ・ライン」番組は六局から継続放映され、ハワイ・サンフランシスコ周辺地域の日本人・日系人に用いられています。

来年も二月に各加盟諸団体の今年の活動や目標について情報を交換し、祈り合う「新年情報交換会」を行います。今から予定に組み入れて、各団体からどなたかが出席くださいますようご案内いたします。詳しくは、後ほど文書でご案内いたします。

各団体から三分以内でご報告いただきますので、ご準備ください。さらに、伝道団体連絡協議会にたいして何かご要望やご意見がありましたら、お気軽に提案していただければ幸いです。

日時・二月四日（火）午後一時～四時  
場所・O C C  
プログラム・礼拝／情報交換会／懇談会

◆

●常任委員会の役割分担が、次のように決まりました。何かありましたら担当までお申しつけください。

総務・浅見／姫井、書記・柳沢、会計・渡辺／岩本、編集・鈴木、庶務・岩崎／十亀

編集後記

第七回研修・懇談会の報告が参加出来なかった方々の参考になれば幸いです。

## 新年情報交換会のご案内

発行日 一九九一年十二月二十日

発行者 本田 弘 慈

編集者 鈴木 繁